

意外と知らない

自然発火にご注意を!!

自然発火とは…

外部から着火せずに、それ自体が空気中において何らかの条件によって発熱し、その熱が長時間蓄積されることによって発火点に達することで、自然に出火する現象のことです。

一般的にはあまり知られていない、火をつけずに自然と発火して火災に至るこの現象、意外と少なくありません。



自然発火の事例



① 油脂類が染み込んだ布類

塗料やワックス、木工用つや出し塗料などをふき取ったぼろ布を積み重ねた状態で長時間置いておくと自然発火することがあります。

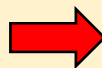
油脂類には、自然発熱性の大きさを表すヨウ素価というものがあり、この値が大きい油脂ほど酸化し発熱しやすく、この熱が蓄積されると自然発火に至ることがあります。

🔥 火災をおこさないために 🔥

- (1) 取り扱いに際して製品の注意表示や取扱説明書を必ず読み、注意事項に従って処理を行ってください。
- (2) 使用したウエスはそのまま捨てずに**焼却**するか、水の入ったバケツ等の容器に入れ、十分水に浸し**水分を含ませた状態で廃棄**してください。



再現実験の様子



実験開始から約6時間後

②揚げかす・揚げ玉

揚げ物を調理する際に出る揚げかすや、植物油を用いて味付け用に作られた揚げ玉を短時間に、また大量に深い鍋状の容器や底の深いお皿等に大量に入れると、余熱によって中心付近が酸化発熱及び蓄熱し、発火することがあります。

🔥火災をおこさないために🔥

揚げかす・揚げ玉の**余熱を十分に取ってから**容器に移してください。



③たい肥、木材チップ等

たい肥や木材チップ等が大量に堆積された場所であって、高温多湿状態が長期間継続する場合、菌やバクテリアが堆肥や木材チップを分解し、発酵熱が生成されます。この熱が蓄積することによって最終的には発煙・発火に至ることがあります。

🔥火災をおこさないために🔥

定期的に切り返し作業(堆積物を掘り返して熱を発散させること)を行って、熱が蓄積しないようにしましょう。

